**剣道『 弐・参段 』解答例**

Ⅰ　知識・理論

**１　剣道において、何故礼儀を大切にするかを述べなさい。**

【起こり】剣道は刀を持って相手を倒すことから始まり、「剣の理法の修錬による人間形成の
道である」という考え方までに発展した我が国の伝統文化である。
剣道は対人的格闘技であるので、ややもすると闘争本能をむき出しにしてしまう場合がある。
こうした闘争本能を人間として制御するところに、剣道における礼の意義がある。それ故に、
古来「剣道は礼に始まって礼に終わる」と厳しく教えられ、実践されてきた。

〔解答〕剣道を修錬する上で、お互いに心を練り、身体を鍛え、技を磨くための良き協力者として、内には相手の人格を尊重して常に感謝の念を持ち、外には端正な姿勢で礼儀正しくすることが、剣道にとって極めて大切なことである。稽古や試合の前後の礼法を立派に行うことはもちろんのこと、終始、正しい心、慎みの心、敬う心といった礼の本体を離れることなく、素晴らしい剣道を創造していくうえで、礼は大切な要素である。

**２　「気・剣・体の一致」について説明しなさい。**

主に、打突動作に関する教えであり、気とは気力、剣とは竹刀操作、体とは体捌きと体勢のことである。これらがタイミング良く調和がとれ、一体となって働くことで有効打突となり得る。

Ⅱ　実　技

**１　「切り返しの目的と効果」について述べなさい。**

〔目的〕切り返しは、正面打ちと連続左右面打ちを組み合わせ、基本動作を総合的に練習する
ためのものである。切り返しのなかで、姿勢と構え、打ちの刃筋や手の内の作用、足さばき間
合いの取り方、呼吸法、さらに強靱な体力や旺盛な気力を養い、気剣体一致の打突の修得を
目的とする。〔効果〕下記の様な効果が養われる。

1. 身体の動作が軽妙になる。　　（敏捷性を養う）
2. 身体や手足の力量を増す。　　（筋力の増強）
3. 気息を長くする。　　　　　　（持久力をつける）
4. 気力を旺盛にし悪癖を矯正出来る。
5. 正しい間合いを認識する事により、手の内がよくなり打突が正確に強くなる。
更に、手の返しが良くなり刃筋正しく打てるようになる。

**２　「基本動作に力を入れる理由」について述べなさい。**

いかなる道に入るにも必ず基礎となるものがある。学問・諸芸能・各種スポーツにしても同様である。まして千変万化、相手の動きに応じて即刻これに対応する剣道においては、尚更この基礎となるべき体の運用・基本的な技・諸作法を徹底的に初期の段階で身につけなければならない。又、多種多様な技のなかには自ら共通な点と、肝要な点がある。
これらの共通・肝要な点を取って組み立てたものを基本動作として、正しい姿勢と確実な打突の方法とを体得させ正しい剣道の上達を図ろうとする技術的基本を、興味を持って・注意深く・真剣に修錬する事が大切であり上達の近道でもある。

**３　「仕掛けていく技の種類」を書きなさい。**

① 一本打ちの技　　② 払い技　　③ 二・三段の技　　④ 出ばな技　　⑤ 引き技
⑥ かつぎ技　　⑦ 片手技　　⑧ 上段からの技　　⑨ 捲き技

Ⅲ　日本剣道形

**１　「日本剣道形の打太刀・仕太刀の役割」を説明しなさい。**

打太刀が師の位、仕太刀が弟子の位の関係を理解させる。
打突の機会については、太刀は機を見て、小太刀は仕太刀が入り身にならんとする処を打つとあるが、特に形に現さないため、師は弟子の気が充実したところに技を仕掛け、充分に仕留めさせることが肝要である。

Ⅳ　試　合

**１　「試合の効果」について述べなさい。**

試合とは、日頃の稽古で修得した技術、気力、体力、態度などを十分に発揮し、短時間の中で勝敗を競い合い、日頃の修錬の成果を試すものである。ただ、試すだけで無く勝敗が決定した後に日頃の稽古内容を反省し、今後の目標を探求する処に大きな効果が現れる。

**剣道『 四・五段 』解答例**

Ⅰ　知識・理論

**１　「剣道指導者としての心構え」について述べなさい。**

剣道の修錬で指導者はもっとも重要な立場にあり、指導者が適切な指導をしているか否かは指導を受ける者の人間的な成長や技術的な成長のすべてを決定していると言っても過言ではない。
剣道では指導者と指導を受ける者とが、互いに身体をぶっつけ合って修錬することが多いので、指導者の人格や技遣いが、指導を受ける者に肌をとおして直接受け入れられ、影響を及ぼすことになる。
基本的な心構えを列挙すれば下記のとおりである。

1. 確固とした信念と情熱、愛情と誠意を持って指導する。
2. 指導を受ける者の人格と個性を尊重しながら指導する。
3. 自らの人格を養い、信頼される指導者となるように努力する。
4. 指導を受ける者とともに修錬に励み、技能の向上に努める。
5. 能率的、合理的な指導法の研究を心がけ、指導を受ける者が理解しやすい指導の方法を研究する。
6. 指導を受ける者の健康や安全に留意する。

**２　「剣道の理念」を実現するため、あなたは「どのような事を心がけて」いますか。**

解答省略　　但し下記の事項を参考として記載する。
剣道の理合いを修得するために、また人間形成をなすために、常日頃どのようなことを心がけているかを記載する。

**２　「心・気・力の一致」について説明しなさい。**

心とは相手の心を推察して、判断、思慮、分別するものであり、気とは充実した気勢を言うのである。
力とは身体の力であって筋肉を意味し、竹刀を持つ力、打突する力、及び踏み込む力である。
心気力一致とは、主に攻防動作の教えであり、心気力の三者が一体となって瞬間的に働くことにより、迫力ある有効打突が生じる。

Ⅱ　実　技

**１　「引き立て稽古の目的」について説明し「元立ちの指導上の留意点」を述べなさい。**

指導者や上位者が元立ちとなり、下位者の技能が向上するように引き立てる稽古法である。
【 指導上の留意点 】

1. 修得した基本動作や応用動作を崩すことなく、充実した気勢で真剣に行わせる。
2. 相手を恐れず侮らず、相手と対等な気持ちで行わせる。
3. 立会いの「初太刀」を大事にし、一本一本に精魂を込めて打突させる。
4. 間合いの取り方や攻め方、打突の機会の見つけ方や作り方、技の出し方などを工夫させる
5. 相手をえり好みしないで、つとめて多くの人と稽古させる。

**２　「打ち込み稽古と掛かり稽古」の相違点を説明しなさい。**

打ち込み稽古は、打ち込む側が元立ちの与える打突部位を捉えて打ち込んでいくなかで、打突の基本的な技術を体得する稽古法である。
掛かり稽古は、掛かる側が積極的に相手を攻め崩して打突の機会をつくり、短時間のうちに気力、体力の限りを尽くして打ち込んでいく稽古法である。

Ⅲ　日本剣道形

**１　「日本剣道形太刀３本目及び小太刀２本目での指導上の留意点」を

それぞれ３つ（３本目）と２つ（２本目）を箇条書きにしなさい。**

　　太刀の形３本目
　　　　 イ．打太刀は的確に水月を突き、手元が上がらぬように注意させる。
　　　　 ロ．仕太刀は突き返したら、更に突きの気勢で位詰めに進むのであって突くのではないから、
　 　 　 　　 その時剣先は突き出さぬようにさせる。
　　　　 ハ．仕太刀がやや早く位詰めに進み、剣先を顔の中心に付けた後、元の位置に戻るときは、
　 　 　　 　 打太刀の始動と呼吸を合わせて引き始めさせる。
　　小太刀の形２本目
　　　　 イ．打太刀は一拍子に脇構えから正しく上段に振りかぶり、真っ直ぐにうち下ろし、斜め打ちに
　 　 　 　　ならぬよう注意させる。
　　　　 ロ．仕太刀は残心をとる時に、ことさら体を進めて接近しないようにさせる。

**２　「日本剣道形修錬の必要性（効果）」について述べなさい。**

剣道形は、先人が英知を尽くして創造したものであり、長い歴史の過程で、理合や精神面に深い内容を持つまでに発達したものである。
日本剣道形を正しく継承して次代に伝えることは大きな意義があり、また、私たちの使命でもある剣道形を繰り返し修錬することによって、剣道の基礎的な礼儀作法や技術、剣の理合を
修得することができ、さらに内面的な気の働きや気位といった剣道の原理原則をも会得できる。
このように剣道形は、剣道の規範となるものであることを深く認識し、平素から日本剣道形の修錬に努めることが大切である。

Ⅳ　試　合

**１　「審判員の心構え」について述べなさい。
（５段受審者のみ解答）**

【 一般的要件 】

1. 公正無私であること。
2. 剣道試合・審判規則、運営要領を熟知し、正しく運用できること。
3. 剣理に精通していること。
4. 審判技術に熟達していること。
5. 健康体で、かつ活動的であること。

【 留意事項 】

1. 服装を端正にすること。
2. 姿勢・態度・所作などを厳正にすること。
3. 言語が明晰であること。
4. 数多くの審判を経験し、反省と研鑽に努めること。
5. 良い審判を見て学ぶこと。